

徳島県におけるベニトンボの調査記録

豊崎 勲¹・山田量崇¹・大原賢二¹

[Isao Toyosaki¹, Kazutaka Yamada¹ and Kenji Ôhara¹: Records of *Trithemis aurora*
(Odonata, Libellulidae) in Tokushima Prefecture, Shikoku, Japan]

キーワード：南方系トンボ，北上，分布拡大，定着

1. はじめに

ベニトンボ *Trithemis aurora* (Burmeister, 1839) は南方系のトンボの一種で、国外では台湾以南の中国中～南部及び東南アジアに広く分布している。国内では、1954年に鹿児島県薩摩半島南端に近い池田湖で発見されたのが最初の記録で、その後、近くの鰻池にも生息していることが報告された(朝比奈, 1956)。その後の調査で、本種はこの池田湖及び鰻池周辺だけに生息し、沖縄県や鹿児島県の南西諸島には生息していないことが確認され、南方系の種でありながら、鹿児島県本土の一部に飛地的な分布をする種として知られていた(竹村, 1958)。さらに、台湾や東南アジアの個体と比較すると、鹿児島県産の本種はやや小型で区別できるとされた。

しかし、1980年頃から八重山諸島や沖縄本島で本種が採集されはじめ、本種が北上しつつあることが判明した。1988年に奄美大島、1993年にはこれまで知られていなかった鹿児島県の池田湖周辺以外の各地でも発見され始めた(長嶺, 1988a, b; 田中, 1991; 松比良・江平, 1999)。南西諸島を北上した個体群は、鹿児島県南部に生息している集団とは別の、台湾以南に生息している個体群と考えられ、形態学的には薩摩半島南部の池田湖周辺に生息していたものよりやや大型で、この個体群が侵入してきわめて短時間のうちに、鹿児島県薩摩半島南部の個体群の特徴を持つものは見られなくなっているという(松比良・江平, 1999)。

本種はこのようなかなりの速さで北上しつつあり、九州ではすべての県において記録され、短期間に分布をほぼ九州全域に広げたようである(岩崎, 2000; 宮川, 2002; 堀田, 2007; 松井, 2008など)。四国では、2001年に高知県西部の旧幡多郡大正町で♂が採集されたのが最初の記録で、2006年に土佐清水市でも採集され、その後、四万十市をはじめ次第に東側に分布を拡大しつつあるという(四万十市の菊池均氏の私信による)。

徳島県においても、これまでに行ってきた各地のため池などの調査の際には本種にも注意していたが、発見には至っていなかった。しかし、布川洋之・吉田一夫両氏によって、すで

2009年2月7日受付, 2009年2月17日受理.

¹ 徳島県立博物館, 〒770-8070 徳島市八万町文化の森総合公園. Tokushima Prefectural Museum, Bunka-no-Mori Park, Hachiman-chô, Tokushima 770-8070, Japan.

に2007年に徳島県でも生息が確認されており、小松島市での発見についての詳細情報を吉田一夫氏から私信でいただいた。それを受けて2008年の秋から我々も徳島市近隣のため池および、県南部での調査を中心に、本種の現時点での分布調査を開始した。

その結果、2008年に徳島市と県南部の美波町日和佐と牟岐町、海陽町において本種を発見できたので、分布記録としてここに報告する。また、本調査は現在のあたりまで分布を拡大しているかを調査したものであり、採集された場所だけでなく、2008年秋期に本種を発見できなかった場所もできるだけ記録しておくことにする。

2. 結果および考察

(1) 成虫を確認した場所

- 1♂（採集）、徳島市下町夫婦池、2008年9月27日、山田量崇（ほかに1♂目撃）
- 1♂（目撃）、阿南市椿町蒲生田（ため池）、2008年9月25日、豊崎勲
- 1♂（目撃）、海部郡美波町奥河内字櫛ヶ谷の水路、2008年9月21日、豊崎勲
- 1♂2♀（採集）、海部郡美波町恵比須浜の池、2008年9月21日、豊崎勲
- 1♂（撮影）、海部郡美波町恵比須浜の池、2008年10月13日、豊崎勲。
- 1♂（撮影）、海部郡牟岐町川長の淵、2008年9月25日、豊崎勲。
- 1♂（採集）、海陽町中山トンボ公園、9月20日、豊崎勲



図1. ベニトンボ, ♂（美波町, 豊崎撮影）

(2) 成虫を確認できなかった場所

(鳴門市)

瀬戸町中島田西山 (中島田池), 9月23日, 10月18日

瀬戸町中島田北田, 9月23日

瀬戸町小島田通りの池, 10月18日

瀬戸町明神丸山の池, 10月18日

撫養町岡崎妙見山下の大池, 10月4日

撫養町黒崎磯崎の池, 10月18日

撫養町黒崎宮津 (黒崎池), 10月9日

撫養町斎田 (斎田大池), 10月4日, 10月9日

撫養町鳴門総合運動公園内の池, 10月7日

大津町吉永の池, 10月7日

大麻町姫田竹下 (中池), 10月9日

大麻町姫田久原 (つきだめ池), 10月9日

(板野郡)

板野町川端字中谷山の池, 9月23日

(名西郡)

石井町石井県立農大裏ため池, 9月28日

石井町前山の池, 9月28日

(徳島市)

川内町上別宮の池, 10月4日



図2. ベニトンボ, ♂ (美波町, 豊崎撮影)

名東町地藏院の池, 9月28日
国府町延命常楽寺の池, 9月28日, 10月18日
国府町西矢野(以西溜池), 10月18日
入田町内ノ御田の池, 9月28日
下町夫婦池, 9月25日, 10月4日, 10月9日
渋野町入野の池, 9月27日
渋野町高曾根の池, 9月27日, 10月4日
渋野町佐野の池(3カ所), 10月4日, 10月9日
八多町の池(6カ所), 9月27日
(小松島市)
田野町芝田小奥の池, 10月4日
田野町天王谷の池, 10月4日
櫛淵町宮ノ内の池, 10月9日
櫛淵町喰味谷の池, 10月9日
櫛淵町湯谷の池, 10月9日
櫛淵町東谷の池, 10月9日
櫛淵町萱原の池(下), 10月9日
櫛淵町萱原の池(上), 9月23日
(阿南市)
那賀川野鳥公園, 9月23日
長生町西福寺横の池, 10月4日
長生町二又谷の池, 10月4日
長生町南千足の水路, 10月9日
桑野町アグリあなんの池, 10月4日
津乃峰町西分の池, 10月4日
内原町亀ヶ前の池, 10月4日
内原町宮谷の池, 10月4日
内原町櫛ヶ谷の池, 10月19日
新野町柳田の池(南), 9月23日
新野町東谷の池, 9月23日, 10月19日
新野町柳田の池(北), 9月23日
新野町東山の池, 9月25日
新野町西地の池, 9月25日
新野町妙見前の池, 10月4日, 10月19日
新野町城田の池, 10月4日
新野町宇井田の池, 10月4日
新野町宮前の池, 10月9日, 10月19日
新野町藤谷の池, 10月9日
新野町大歳の池, 10月9日

椿町上地の池, 10月23日
椿町蒲生田船瀬温泉下, 9月25日
椿町蒲生田のため池, 10月4日
椿町蒲生田大池, 9月25日
椿町蒲生田の池, 10月4日
(海部郡美波町)
東由岐由宇の池, 9月25日
恵比須浜の池, 10月19日
奥河内字櫛ヶ谷, 9月23日
奥潟サンライン入り口手前, 9月21日
奥河内字寺前, 9月21日, 9月23日
田井, 9月21日
北河内, 9月21日
(海部郡牟岐町)
川長の淵, 9月25日, 10月13日
牟岐中学校トンボ公園, 9月25日
大字河内の池, 10月13日
大字中村字奥前 JR 牟岐駅裏の湿地, 10月13日
大字中村字杉谷 JR 牟岐駅裏の小池, 10月13日
(海部郡海陽町)
浅川海老ヶ池, 9月20日, 9月25日
浅川伊勢田川の堰上流, 10月28日
浅川浦上川 (国道近辺), 10月28日, 11月15日
浅川粟ノ浦の小川, 10月28日, 11月15日
大里字前田善蔵川, 10月28日
中山字神子ヶ谷トンボ公園, 10月13日
櫛川字片山の池, 10月13日
高園母川馬路橋周辺, 11月1日
高園母川橋周辺, 11月1日
宍喰浦字那佐の池, 9月20日
宍喰中学校ピオトープ, 9月20日
宍喰浦字三反田宍喰川水門周辺, 11月1日

これらの調査地点の多くは豊崎が調査したもので、鳴門市や徳島市などはそれぞれが機会を見て調査を行った場合と、山田と豊崎、あるいは大原と山田と一緒に複数の池を調査した場合もある。県南部の地域のほとんどは豊崎が調査したもので、日和佐や牟岐町、海陽町などで成虫を発見できた地点でも、継続して見られる場所はほとんどなかった。

(3) ベニトンボの2008年時点での分布について

本種が小松島市内で発見されたということから、現時点でどのような分布をしているかについて各地を調査したが、結果的には県南部では旧日和佐町、牟岐町、旧海部町で発見できたが、複数個体、さらに♀を含む個体が得られた場所は日和佐の恵比須浜の池だけであった。

小松島市田野町の池で吉田一夫氏が採集されたということ、我々は櫛淵付近の複数の池を調査したが、櫛淵周辺の池では発見していない。

徳島市内では下町の夫婦池で2♂を発見しているが、この池や洪野町、八多町、国府町など近隣地域の池ではその後の調査では全く姿を見ていない。

調査の開始がやや時期的には遅かった可能性もあるが、2008年の秋の時点では、県南部から徳島市内まで見られたことになり、本種の分布拡大のスピードは相当速いと思われる。

ただ、あまり移動性がないといわれる♀が確認できたのは日和佐だけであり、近くで観察できない場合には類似種との区別が難しいこともあって、♀の識別が確実にできないと成虫が見られた場所で繁殖しているかどうかについての判断は難しいと思われる。

また、我々は基本的な生息環境はため池などであると考えていたが、水路などもかなり好んで利用するというを吉田一夫氏からご教示いただいた。牟岐町で豊崎が発見・撮影した場所がやや広い水路であり、このような水路は県内には多いので、池だけでなくそのような環境にも注意する必要がある。

♂が徳島市まで発見できたことで、2009年には鳴門市や板野郡などで継続的な調査を行って、分布拡大の速さや方向などについての情報を収集したいと考えている。

文末ではあるが、本種の小松島市内の発見に関する情報や、生息環境などについてご教示くださった阿波市の吉田一夫氏と、高知県の状況などをご教示下さった朝日新聞四万十支局の菊池均氏に厚く御礼申し上げます。

引用文献

- 朝比奈正二郎. 1956. 日本におけるベニトンボの発見. 新昆虫, 9(1): 51.
- 堀田実. 2007. 大分県でベニトンボを確認. 二豊のむし, (45): 27.
- 岩崎郁雄. 2000. 宮崎県で発生したベニトンボ. タテハモドキ, (36):15.
- 松比良邦彦・江平憲治. 1999. ベニトンボを加世田市で採集. SATSUMA, 49(120): 109.
- 松井英司. 2008. ベニトンボを熊本県山都町で採集. 月刊むし, (454): 11.
- 宮川統. 2002. 熊本県でベニトンボを確認. TOMBO, 45 (1-4): 39.
- 長嶺邦雄. 1988a. 徳之島のチョウ・トンボ・セミ (1988年8月). SATSUMA, 37(100): 306-307.
- 長嶺邦雄. 1988b. 奄美大島でのトンボ類の目撃・採集記録 (1988年8月). SATSUMA, 37(100): 308-309.
- 竹村芳夫. 1958. 郷土の昆虫図説 (Ⅱ). SATSUMA, 7(17): 1-2.
- 田中洋. 1991. 奄美大島のベニトンボの記録. SATSUMA, 39(103): 109.